

# vol.3 東洋と西洋の《関》<sup>かん</sup>

## 弦楽四重奏 × 現代音楽

Current  
Creation  
Composition

シーキューブ

「音を観る」ということ

世の中おんじょうのすべての音を感じ取って救いの手を差し伸べてくださる観音さま。  
湖北・長浜では、数多くの観音さまが地域を守り、また地域に守られ続けています。  
「観音の里」を実際に巡った桑原ゆうが紡ぐ音、そして東洋と西洋を結ぶこのコンサートから  
私たちも観音さまのように何かを感じてみませんか。

### 曲目

真鍋尚之

平調調子によるパラフレーズ

桑原ゆう

西方の観音にしざま(ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの主題による)

ベンジャミン・ブリテン

弦楽四重奏曲第1番

《琵琶古典曲》永田錦心

湖水乗切こすいのかぎり\*

ルチアーノ・ベリオ

夜想曲(生誕100周年)

桑原ゆう

かくれ里かくれり 仏名会ぶつなかい ◆\*

◆公益財団法人びわ湖芸術文化財団 委嘱新作・世界初演  
\*ゲスト演奏曲

出演 ルリトラノオ弦楽四重奏団

亀井庸州(ヴァイオリン)

松岡麻衣子(ヴァイオリン)

安田貴裕(ヴィオラ)

竹本聖子(チェロ)

ゲスト 久保田晶子(琵琶)

チケット 一般 3,000円 | 24歳以下 1,500円 (消費税10%込)  
全席自由 ※6歳以上入場可 [発売日:8月9日(土)]

チケット ▶びわ湖ホールチケットセンター(窓口販売、現金のみ)  
取り扱い (10:00~19:00 火曜日休館、休日の場合は翌日 8/12~17休館) TEL.077-523-7136  
▶びわ湖芸術文化財団オンラインチケット <https://biwako-arts.tstar.jp/>  
▶teket(電子チケット) <https://teket.jp/14056/52497>

主催—公益財団法人びわ湖芸術文化財団、文化・経済フォーラム滋賀  
協力—中川能舞台、一般社団法人淡座、京都市立芸術大学現代音楽研究会club MoCo  
後援—滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会、長浜市、長浜市教育委員会

お問い合わせ—公益財団法人びわ湖芸術文化財団 地域創造部  
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15-1 ☎077-523-7146

このコンサートは、サントリー芸術財団佐治敬三賞推薦コンサートです。  
第55回滋賀県芸術文化祭参加事業

日時 2025 11 / 8 (土) 14:00 開演  
[13:30開場]

会場 中川能舞台

滋賀県長浜市地福寺町8-29  
☎0749-62-0630





桑原 ゆう  
KUWABARA Yu



亀井 庸州  
KAMEI Yoshu



松岡 麻衣子  
MATSUOKA Maiko



安田 貴裕  
YASUDA Takahiro



竹本 聖子  
TAKEMOTO Seiko



久保田 晶子  
KUBOTA Akiko

弦楽四重奏×現代音楽の切り口で、近江・滋賀の地を巡りながら、その風情や土地に根付く伝統の魅力や世界観を音楽で探るコンサート・シリーズ、C<sup>3</sup>。Current × Creation × Compositionの3つのCで、古来から東西の地域を結ぶ交通の要衝の近江を描きます。現代音楽界をけん引する旬の作曲家が、近江の地をテーマにした新曲を発表。そして、本企画のために結成した現代音楽のスペシャリストで構成するルリトラノオ弦楽四重奏団が、レジデント・アーティストとして現代音楽と近江・滋賀をつなぎます。

桑原 ゆう〈作曲〉くわばら・ゆう

日本の音と言葉を源流から探り、文化の古今と東西をつなぐことを軸に創作を展開。第31回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞。第6回高松国際ピアノコンクール委嘱曲作曲家。英国Bachtrack「2023年注目の女性作曲家8人」。国立劇場、ルツェルン音楽祭等、国内外で多くの委嘱を受ける。現代曲名門レーベルKAIROS(ウィーン)より作品集リリース。Edition Gravis(ベルリン)より楽譜出版。淡座メンバー。現在、国立音楽大学准教授。東京藝術大学、洗足学園音楽大学にて講師。  
<https://3shimai.com/you/>

びわ湖・アーティスト・みんぐる

2025年11月8日(土)

C<sup>3</sup> シーキューブ vol.3

14:00 開演 / 13:30 開場

東洋と西洋の《関》



ルリトラノオ弦楽四重奏団

本企画のレジデント・アーティストとして現代音楽のスペシャリストにより結成。ルリトラノオは、滋賀県米原市の伊吹山山頂にのみ自生する瑠璃色をした虎の尾に似た花の名で、花言葉は「常に微笑みを持って」。

亀井庸州〈ヴァイオリン〉かめい・ようしゅう

2000年ごろから主に同世代の作品初演を専門に活動を開始。東京音楽大学卒業後、ベルギー王立リエージュ音楽院において、欧州の20世紀の音楽や即興演奏を学んだ。帰国後も引き続き新作の初演活動に携わり、個人企画のほか、東京オペラシティ音楽財団、サントリー芸術財団、みなとみらいホール等の主催公演に出演し、内外の作曲家による室内楽、ソロ作品の初演、再演を中心として活動している。これまでに初演した作品は100曲を超える。

松岡麻衣子〈ヴァイオリン〉まつおか・まいこ

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、同大学研究科修了。IEMA(フランクフルト音楽・舞台芸術大学)にて研鑽を積む。アンサンブル・リネア、アンサンブル・モデルン等の現代音楽演奏団体で、世界各地の現代音楽祭やコンサートに出演。日本現代音楽協会主催・演奏コンクール「競奏XI」第2位。近現代作品の演奏を軸に、17年結成のフィディアス・トリオ(クラリネット・ヴァイオリン・ピアノ)での活動、他ジャンルのアーティストのコーポレーションも意欲的に行っている。

安田貴裕〈ヴィオラ〉やすだ・たかひろ

東京音楽大学入学後、奨学金を得て州立フロリダ国際大学に入学。帰国後、同時代の作曲家と共に歩むことを主眼に活動を行ない、川上統氏作曲「ヴィオラと管弦楽のための「Cybele」の独奏ヴィオラなどを始め、40を上回る作品の初演に携わる。東京オペラシティ主催「コンポーザム」シリーズ、サントリーホール主催のポリニー・パースペクティヴなどにも多く出演している。これまでに川島正雄、三戸泰雄、山口裕之の各氏に師事。

竹本聖子〈チェロ〉たけもと・せいこ

福岡県出身。東京音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。学生時代から作品発表に数多く参加。能楽家青木涼子による能と現代音楽を掛け合わせたプロジェクトに参加、薬師寺で奉納演奏を行う。川上統の組曲「甲殻」のCD録音及び世界初演、ゼミソン・ダリルによる「河原院」他シリーズ、桑原ゆうの無伴奏作品「達魔が時のうた」改訂世界初演など、ジャンルの垣根を越えた演奏活動を送っている。「淡座」メンバー、「オーケストラ・トリプティーク」首席奏者。

久保田晶子〈琵琶〉くばた・あきこ

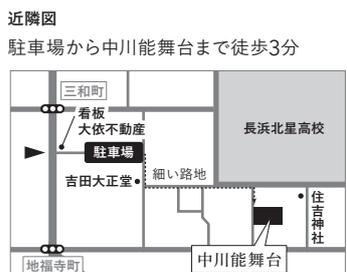
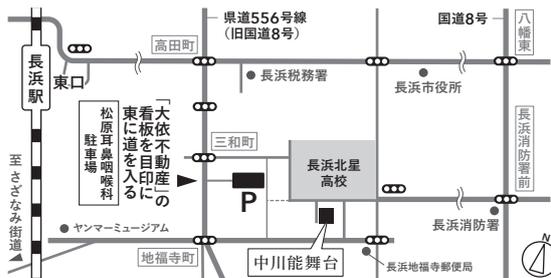
平家物語などの古典曲はもちろん、童話や民話、落語を元に新作の語り作品を創作、自演もしている。アニメ・テレビ音楽の録音、劇中音楽への参加、器楽としてのアンサンブル演奏まで活動は多岐にわたる。日本音楽集団やアンサンブル室町などの団体でも活躍。また国内外のオーケストラとソリストとして共演するなどの活動も多数。新作の初演など作曲家との協働も数多く手掛ける。2019年琵琶楽コンクール第一位。文部科学大臣賞。

vol.3のテーマは、「東洋と西洋の《関》」。《関》は乗り越えるべき関所、関門、入り口のこと。神聖な神社仏閣の入り口には内と外を隔てる鳥居や山門があり、そこは内と外の空気が交わる場所ともいえます。今回の委嘱曲の題材は、湖北の観音さま。滋賀県湖北地域の長浜市は、「観音の里」と呼ばれるように古代から数多くの観音像が伝わっています。委嘱作曲家の桑原ゆう氏には湖北の観音さまを巡り、湖北特有の「観音文化」を感じていただきました。観音さまの日頃の管理や参拝者対応にあたる地元の方々の声をとおして肌で感じたすべてを、琵琶を加えた弦楽四重奏に吹き込みます。

また会場の中川能舞台は、観世流能楽師の中川清が自宅内に建設した伝統的な能舞台。床下は約1m空洞になっており、底盤にある陶器製の甕が豊かな響きをもたらします。本公演では、弦楽四重奏の西洋的な響きと、琵琶そして能舞台の東洋的な響きとが交わるひとときを届けます。

会場 中川能舞台  
滋賀県長浜市地福寺町8-29

アクセス JR長浜駅より徒歩20分、タクシー5分。  
大依不動産様の看板を目印に、松原耳鼻咽喉科様(閉業中)の駐車場(約35台)をご利用ください。



京都市立芸術大学 現代音楽研究会club MoCo × C<sup>3</sup>  
公演日 2025年9月20日(土) 15:00開演(14:30開場)  
会場 日本基督教団 大津教会(滋賀県大津市末広町6-6)  
料金 無料 出演 京都市立芸術大学現代音楽研究会club MoCo

詳細はこちら



プレコンサート